



## コラム 派遣研究員レポート

名前	派遣先	派遣期間
サイン・ホビト	北京師範大学文学院 民間文学研究所	2023年 9月 4日～2023年 9月24日
張 高娃	フランス国立高等研究院 東アジア文明研究センター	2023年12月 1日～2023年12月22日

# 北京師範大学派遣期間の生活ノート



サイン・ホビト (好必图)  
(歴史民俗資料学研究所 博士後期課程)

## I 外国人体験

2023年9月4日から9月24日まで、派遣研究員として、北京師範大学文学院を訪問した。私は新型コロナが落ち着くまで帰国できず、また2022年にロシアに留学していたため、中国に帰るのは5年ぶりのことだった。近年の中国の変化は大きく、さらに日本に慣れていた私は、まるで外国人であるかのように感じられた。

携帯でインターネットを使うには国内の電話番号が必要で、それを申請するにはSIMカードが必要となり、SIMカードの作成は必ず身分証明書が必要だった。私は身分証明書を持っておらず、実家に置いていたため手続きに手間取った。前回中国に帰国した時は、パスポートで身分証明書を代用し、現金を持っていれば生活は問題がなかったが、今度は違っていた。中国国民は身分証明書のみ有効で、パスポートは使えない。大学キャンパスや、列車の駅に入る時、図書館の利用など必ず身分証明書を提示しなければならない。バス、地下鉄、タクシーや飲食店など、ほとんどの支払いはURコードになり、電子(携帯)決済が普及していた。身分証明書とインターネットが生活必需品となった。



写真2 (左から右へ) 巖さん、万先生、筆者

北京に行く決めてから何も不安はなかったが、北京に到着してから不安でたまらなくなった。幸いなことに北京師範大学文学院の巖曼華さん(博士後期課程2年生)が空港で迎えてくれた。後に彼女は万建中先生のとこに案内してくれたり、大学入構の予約(毎回必要)をしたり、図書館、食堂の利用を手伝ったりしてくれた。そのお陰で多くの資料が見つかり、北京での生活は大変面白かった。

## II 慣れるのは早い

9月4日に北京に到着したが、実際に8日から師範大学の図書館に入り、資料を調査することができた。私はモンゴルの拜火信仰を研究したく、中国における火神、竈神、火把祭の資料を求めていた。またゾロアスター教と暦について資料を探したかった。これら火に関わる信仰主体とこれらの関係を明らかにしたいと考えている。火神、竈神に関わる記録は図書館の文化宗教と民族歴史分類、民俗考古分類に見られる。8日から11日まで、また15日から23日(そのうち体調が悪く二日間休んだ)まで図書館で資料を調べた。その成果については別の機会で報告したい。

12日は頤和園を見学し、13日は北京古代建築博物



写真1 北京師範大学図書館入口 顔識別の自動ドア

館、14日は国家博物館を見学した。

北京で移動することは大変で、さらにバスに酔いやすい私は困った。地下鉄なら酔わなくてすむが、ホテルか



写真3 頤和園 園内風景



写真4 北京古代建築博物館 天井



写真5 故宮の屋根に立つ九つの獅子

ら遠く、地下鉄駅が目的地まで少し離れている。最初は本当に困っていたが、後に移動を乗り越える便利な方法を見つけた。それは自転車だった。北京は大都市で、人口も多いが、広い自転車道が整備されている。我々の生活の中、腰を掛ける時間は長い。そのため、運動にもなって、北京を見て回りたい場合の最良の選択である。

### まとめ

北京での生活はとても意義のある体験だった。私は2015年に日本に来て、修士学位も日本の大学で取得したので、中国国内の学術環境についてほとんど分かっていなかった。国内の資料も滅多に利用しておらず、今回初めて検索システムを使って、また全面的に調べることができた。もちろん時間の制限がある中で、関係する資料を全ては把握することができていないが、重要な資料は見つかっている。文學院の万先生のご指導とアドバイスを聞いて、博論の構成とこれからの学術の道について新しい方向を見いだした。また、久しぶりの中国での生活に不安を持っていたが、すぐ慣れることができた。そして、北京の生活と実態を見学したことで、今後研究者として「生活に入り、生活を理解する」点において、思考の理念と捉える視点がより広がったと思う。

9月に北京での生活を経て、10月に行った内モンゴルでの調査に直接入ることができた。中国で調査する基本条件（携帯番号、移動）と方法、生活経験など多くの面で欠かせない訓練を受けたため、内モンゴルでは素晴らしい調査が実施できた。さらに今後は中国で研究生活（モンゴル地域の調査と勉強など）を送る可能性も見つけ、とても意義のある派遣期間であった。



写真6 北京の自転車道